

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人愛生会		
事業所名	グループホーム愛生		
所在地	熊本県人吉市二日町22		
自己評価作成日	令和3年3月	評価結果市町村受理日	令和3年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部に建てられた愛生会本館の4階と5階を利用して作られたグループホームは、窓からは日本三大急流球磨川・人吉城跡を見下ろし、さらに全方向市内を一望できる素晴らしい環境である。令和2年度の豪雨被害でも、その立地から避難する必要なく、グループホームの利用者様はいつもとお変わらない環境で生活することができた。利用者様の体調管理については、母体病院や訪問看護ステーションと随時相談できる体制が整えられており、緊急時など速やかな対応ができるため、利用者様やご家族様の安心感にもつながっていると思われる。施設内においては、月ごとに飾りつけを変えて季節を肌で感じていただけるように工夫したり、家庭的な雰囲気づくりに努めている。また、健康体操・嚥下体操は毎日1日2回実施しており、必要に応じて個別での運動も行っているほか、歌や学習療法、その他レクレーションも毎日の生活の中に取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

人吉の中心部の病院の4・5階にあるホームは、病院の階上というハード面のリスクはあるが、昨年の豪雨災害ではホームには直接的な被害はなかったものの、1階は甚大な被害を受け復旧が進んでいる。入居者の入れ替わりがある中、平均介護度の高さや疾病も抱えながらの入居者に職員が優しく声を掛けながら、穏やかな日常を支援している。職員のケアの確かさは、寝たきりの状態での入居に、職員の懸命のケアが独歩に繋がりが元気で過される様子に出している。職員の健康管理により異常発見や緊急時対応等母体病院や系列施設との連携した取組は家族のみならず職員の安心してケアに取り組める要因でもあるが、ズーム会議やケース検討会議の他、ネット環境を整えケア向上を図るホームである。地域の中での医療・福祉を担う法人として、今後も防災の拠点としての活躍に大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日夕方の申し送りの際、4階・5階合同で理念の復唱を行っている。復唱することで、再確認を行い、それを現場に活かす様に努めている。	夕礼時の唱和による意識付けや職員研修の中で理念を想起させながら振り返り、ケアに反映させるよう努めている。コロナ禍や豪雨災害によりグループホームが入る病院は復旧中で有るが、災害時には避難者を受け入れる等地域密着型の役割を發揮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為面会規制を敷いており、例年行っていた地域交流は、今年度ほとんど行っていない。運営推進会議などを通して、グループホームの情報を発信している。球磨川沿いの散歩や寺社参拝等の近所を散歩する際に、地域の方に挨拶をしたり、近くの保育園の子どもたちの様子を眺めたりする程度の交流しか行っていない。	今年度は新型コロナウイルス対策を徹底した中で、7月には大水害の直撃という状況に地域の行事の中止や、外出制限もあり地域との交流は行えない状況にある。散歩に出かけ花を摘んで帰ったり、近隣の美容室や買い物などには出かけることはあるが、最小限度の交流である。	入居者が地域とつながりながらの生活は今は難しい状況にある。コロナ収束を見据え、近くにある社会資源のリサーチや、これまで交流していた活動が開催されることで地域の中での生活拡充に繋げていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で介護の相談等あれば相談に応じている。また、利用者家族・入居希望者などの介護の相談などにも対応をしている。立ち入り規制を行っており、例年受け付けているボランティア受け入れなどは行っていない。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの利用者様の状態報告や行事報告を行い、町内の方・市の担当者の方から改善などの意見があれば、それを現場に活かせるように努力している。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催人員を最低限で実施したため、グループホーム愛生の運営については郵送での報告であり、意見交換の機会をほとんど持つことができなかった。	新型コロナ感染対策として書面での開催や、市役所からの参加のみでの開催として、運営状況や事故等の報告を意見交換を行い、地域の委員には、書面とともに返信を添えた意見書により収集する体制としているが、意見等は挙がっていない。	人吉地域は新型コロナ感染症のみならず、地域全体が甚大な被害という状況に、地域や家族の方々の参加は困難であると推察される。今後も、ホームの現状や入居者の様子を発信していただきたい。また、コロナ収束後にはこれまで通りの運営推進会議を開催し、参加委員との積極的な意見交換によりサービス向上に生かしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、市の担当者から新型コロナウイルス等の感染情報や介護保険情報等を得たり、水害被害後の経過など情報提供をいただいている。また、利用者様の介護更新手続等で市役所へ行った時、色々と問題があれば、相談をしている。	行政からメールにより新型コロナ感染対策関係情報や、豪雨災害被害後の対策等により状況を把握している。また、緊急避難受け入れでの問い合わせにより被災者を受け入れる等協力関係を築いている。また、介護認定更新手続きに出向きながら問題などがあれば相談し、適切なアドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束委員会を開催し、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。身体拘束の指針を含めたマニュアルは、誰でも閲覧できるように掲示している。自施設研修は定期的に計画・実施し、職員全員に学習する機会を設け、スピーチロックの禁止など利用者様の対応に活かして、尊厳あるケアに努めている。	身体拘束廃止の指針及びマニュアルを整備し、同系列グループホーム等と合同で身体拘束廃止委員会により事例検討等を行っているが、コロナ禍によりオンラインで開催している。研修の中で、スピーチロックも接遇と一つとして強化を図り、転倒防止に使用するセンサーについて家族の同意を得ていると共に、ナースコールの頻回の使用等には個々の状態を話し合い、夜間の不眠に対策としてフロアでの見守り及び傾聴を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、虐待について自施設研修を定期的に計画・実施している。また、自治体や県が主催するオンラインでの虐待防止研修への参加も推奨し、参加できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の実施はできていない。しかしながら、成年後見制度を利用されている利用者様もおられることや、認知症の利用者様が主体的に自分らしい生活が送れるように支援していくためにも、職員は制度の理解を深めていく必要があると考えている。オンライン研修などを活用して積極的な研修参加を推進していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時には、施設見学などで利用者様の暮らしや施設設備をしっかりと確認していただき、説明を行ったうえで、疑問点を解消できるように取り組んでいる(施設立ち入り規制前)。契約時には、書類の項目ごとに説明を行い、利用者様とご家族様の双方に納得いただいたうえで契約を結んでいる。また、利用料金や、緊急時の対応など、変更になる可能性のあるものについては、その都度説明を行い、書面での同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などあれば、運営推進会議でも報告し、それらを運営に反映するようにしている。現状は来訪時・サービス担当者会議等で意見や要望を聞く機会はあるが運営に関する意見や要望は聞かれていない。水害で設置していたご意見箱が流されたが、まだ再設置できていない。	家族の来訪時意見や要望を聞き取りするものあまり出されることはないとのことである。家族によって電話により面会への要望等が出されており、家族は面会がままならない状況にはあるが、ズームでの面会のみならずオンライン面会を奨めている。本来であれば、運営推進会議も問題提起の場として意見等も挙がっていたものと思われるが、現状としては議事録や意見書を送付し、意見等を収集する体制としている。	毎月の便り(担当職員による)に写真を添付した情報の発信は、訪問もままならない家族への不安軽減として生かされている。コロナが収束に向かえば、食事会を催す等検討いただき、忌憚の無い意見や要望を引き出し、サービスに反映いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議で、意見や提案ができる場が設けられている。管理者は、利用者様介護においては、実際に介護にあたる職員の意見を聞き、検討改善を図るように努めており、日常業務の中でも必要に応じて個々に面談を行ったり、意見を募っている。	日々の中で、ラインワークを活用し職員からの相談や、情報を共有している。毎月の職員会議もズーム開催としている。入居者の動き等により業務検討会議を開催し、全員で改善策を検討している。また、職員の希望に応じた勤務体制等働きやすい環境を整え、介護職員のケア指導(移乗介助等)によりケア向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休・育児休暇・有給休暇等の取得、職場復帰への理解がある。週休2日が守られており、部署移動などの希望も申し出ることができる。スキルアップのための研修参加等への理解がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の自己評価表をもとに、年2回の個人面談を実施している。オンライン研修会について、申し送りノートの活用や掲示を行うことで情報提供している。又、必要に応じて個別に参加を促すこともある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修などに参加し、他の施設のスタッフなどと意見交換をする事により、自分の施設の見直しなどを行い、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの基本理念の考えを基本として、常に利用者様の声に耳を傾け、表情・会話等の中から見つけた、利用者様に対する気づきを大切にしている。対応するときは必ず立ち止まり、目線を合わせしっかりと話を聞くこと、丁寧な対応をすることを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約時においても、出来る限り多くの時間を使い、ご家族様からの情報や要望等を伺い、ご家族様の不安を軽減できるように努めている。入居後は本人様の些細な変化でもご家族様に連絡を行い、情報交換している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談時から、医療やその他関係する専門職との連携により細やかな情報収集を行い、ニーズの把握に努めている。本人様・ご家族様が不安に思う事・必要としている事を汲み取り、最も本人様に良い方法を提供できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がグループホームの中で役割を持ち、主体的に生活できること、役割があることによる自信や達成感を得ることができるように支援している。利用者様のできたことに対する称賛、してもらったことに対する感謝の言葉をかけていくことを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止の為面会制限を行っており、利用者様の状況をお伝えする機会が減っている。少しでも利用者様のご様子をお伝えすることができるように、毎月のお便りで活動状況や体調を伝え、担当職員からの電話連絡を月1~2回は行うようになっている。また、オンラインでの面会が行えるように、PCなどの環境整備を行い、ご家族様への使用推進を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常時は、利用者様の馴染みのある方の来設はいつでも受け付けており、利用者様の楽しみの一つでもあるが、新型コロナウイルス感染拡大によりこの1年はその機会を持っていない。限られた人数ではあるが、手紙や電話のやりとりで交友関係を継続されている方はおられる。施設側からは、オンラインでの面会ができる環境を整えており、活用していただくようお勧めしている。	行きつけの美容院の利用や、訪問美容を活用しており、入居者はまだ来れないと心待ちにされる様子も聞かれ、馴染みの関係性にある事が伺われる。外出制限の中ではあるが、初詣に出かけている。面会も制限されており、電話や手紙でのやりとり、オンライン面会の環境を整備している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の中核症状により出現する言動が、利用者様の関係性に影響することもあるが、生活環境の整備や個別の関りで居室への閉じこもりにつながらないように支援している。レクリエーションなどを通して、利用者様同士がかかわる時間を作るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するときは利用者様が無くなった場合が多い。転居などの際は、転居先へ利用者様の同意を得て情報提供を行い、ご家族様への説明も丁寧に行うように努め、利用者様・ご家族様ともに不安なく転居できるように配慮している。ご家族様が経営されている理容室や、新聞店などは、利用者様が退去された後も利用させていただいて		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様・ご家族様の思いや要望に耳を傾け、ひとりひとりの意向の把握に努めている。又、意思疎通が難しい利用者様であっても、生活歴などを参考にご家族様・職員と話しを行い、本人様にとってより良い生活が出来る環境作りに努めている。また、利用者様の表情や言動などから、必要に応じて意向の再確認を行っている。	入居者の一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、日々の会話で真意を見極めたり、表情等から推察し、こうだろうと推し量りながらケアに反映させ、単語も意思として捉える等、発語困難等把握が難しい場合は、話し合いながら本人本位の生活となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症の程度によっては、利用者様本人から情報を得ることは困難な場合も多い。ご家族様からの情報が主であるが、初回の聞き取りで終わらせず、より詳しい情報収集が行えるよう、ご家族様との信頼関係の構築に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にオンラインでのケース会議を行い、個別の検討を行っている。心身状況については、管理者・看護・介護が情報を共有し、課題があれば改善に向けて取り組んでいる。個別の利用者様の心身状況やその日の状態に応じて、ご本人のペースで過ごせるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議では、本人・家族・関係機関・計画担当者・介護職員等が参加し、それぞれの意見や希望、ニーズを反映した計画を作成している。月1回のモニタリングと定期的なケース会議を実施し、評価を行っている。	本人・家族の意向を聞き取りし、健康状態やICFレベルアセスメント等を把握し、毎月職員との意見交換や3月毎のモニタリング等によりプランの継続可否を見極めている。介護認定更新時に合わせたプランの見直しの他、基本的には年に1回は担当職員や訪問看護職員等の意見をもとに新たなプランを作成しており、現状に即したプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりに担当者を割り当て、担当者を中心に管理者・計画作成者・介護職員で日々の支援についての話し合いを行い、実践している。又、ケース記録や申し送りの他、ICTなども活用して情報の共有化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚙下状態が低下した方に対して、母体病院のSTによる指導を受け、口腔マッサージや口腔体操の実施、下肢の筋力維持のためのマモリスの活用、透析の必要な方の送迎、自宅が水害被害にあった方へ気がかりをなくするため自宅確認にお連れするなど、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、例年行われていたボランティアの方との交流を含め、ほとんど地域との交流の時間が作れていない。感染レベルが低下した間のわずかな期間ではあるが、地域の理容室へ散髪に出かけたり、近くの寺社参拝を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人様が入居前にかかっておられた医療機関との連携を行いながら支援するようにしているが、内科に関しては、連携体制の整っている同法人の医療機関へ変更をされている。その他、精神科や眼科、歯科、外科、等専門医院の受診については、利用者様及びご家族様の希望に沿って受診できるよう支援し、希望があれば受診同行も行っている。	殆どの入居者が母体医療機関をかかりつけ医であり、被災後の復旧工事進行中のため、同法人の別の医療機関へ受診に出向いている。専門医など他の医療機関については、基本的に家族の対応とし、家族の希望などによりホーム側も同行し情報を共有している。日々のバイタルチェックや関わりから入居者の異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護日に、利用者様の状態報告を行い、必要があれば指示を仰いでいる。また、毎朝行うオンラインでの申し送りで、日々の状態報告ができています。緊急時には、24時間いつでも相談できる体制が整えられ、必要に応じて対応していただけるようになっており、職場内に看護職は配置されていないが安心感が得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師、医療ソーシャルワーカーとの連絡は密に行い、利用者様の状態把握に努めている。状況に応じてカンファレンスを開催し、情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ドクターより家族へ、病状の説明が行われ、今後についての話し合いを介護スタッフも含めて行っている。また、利用者様との契約の際、緊急時の対応についての意思を確認し同意を得ている。それに基づき計画の見直しを行い、入居者が一番良い状態で過ごしていただけるように支援している。ただし、意思確認書については、途中で考えが変わる可能性もあり、改めて確認を行っている。	重化した場合の指針、その中で看取りの考え方を明確に示し、食事の口腔摂取ができるまでをホームでの生活の継続を目安としている。体調の著しい変化等に伴い、主治医から家族への説明が行われ、家族の意向を把握し、今後について最良の方法を検討することとしている。職員は、入居者の普段の健康状態を重視し、今後を想定したエアマットの準備や体に合わない車椅子を家族とともに使い勝手の良いものに交換する等安全や健康面への提案を行っている。	管理者から、医療的な部分も振り返り、研修を行いたいとの意向も聞かれた。高齢化・重度化する入居者を支えるホームであり、介護に加え、医療的な部分も研修されることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、施設内外の研修に参加すると共に、フローチャートを作成し、日々確認を行うようにしているが、経験の浅い職員もおり十分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画の中に災害訓練を設け実施している。夜勤に入る時に、火災のシミュレーションを行い、放送設備や通報設備の訓練を行っている。車いすの利用者様が多いことや、4階5階という立地から、日頃から避難経路や誘導順番などの話し合いを職員間で行っている。	昨年の豪雨災害ではホームが入る医療機関が甚大な被害を受けたが、建物4・5階にあるグループホームは直接的な被害は無かったようである。今年度は、災害直前にオンラインで水害訓練を行い、年二回設備会社との火災訓練により有事に備えている。備蓄は一覧表にして3日分の食料を確保し、近隣地域の一時避難所としての役割が大きいホームである。	今回の水害では、ホーム自体は事なきを得たが、上層部にある事からエレベーターが止まった場合の避難が課題であるとしており、法人や消防署等との連携に期待したい。また、地域からは、避難所である小学校までの距離を心配して相談が寄せられており、法人施設への避難を提案しており、更なる役目を大いに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶・言葉遣いに関しては、理念同様タフの申し送りの際に唱和し、職員の意識付けを行っている。研修にも接遇・マナーを取り入れている。利用者様に対しては、職員配置上同姓介助を徹底することは難しいが、利用者様の自尊心や羞恥心などに配慮し、最低限守らなければならない点(排泄時や入浴時等)で、利用者様が不快にならない言葉かけを実践している。	夕礼時に挨拶や言葉遣いについての唱和により意識付けとし、排泄や入浴時等同姓介助に希望に出来る限り対応している。呼称は苗字や名前にさん付けとして相手や周りが不快に思われないよう声を掛け、入居者を年配者として尊敬の念を持ってケアに努め、優しく分かりやすい言葉で話しかけ、馴れ合いにならないよう注意している。また、グループラインに変更したことで個人情報の漏洩には十分注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動・トイレ・入浴など必ず本人様に声掛けし同意を得てから行動に移している。意思疎通がむずかしい方でも必ず声掛けを行い行動に移している。訴えがある時は、側に寄り添い話を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や体操の時間などは、1日のリズムを付けるために時間を決めて行っているが、それ以外は、本人様の言動や体調などから判断して、できる限り希望に沿えるように支援している。支援が職員の都合で行われないように、できるだけ多く検討する時間を持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当施設はほぼ女性の利用者様であり、特に身だしなみについては配慮をしている。髪型や服装は清潔で体形に合ったものを着用できるようにしているが、好みの把握が難しいこともあり、その人らしさが表現できているかどうかは難しい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	殆どの利用者様が、食事の準備に関するあらゆること難しくおられる。その中でも、お盆やテーブルを拭いたり、できることをして頂けるように心がけている。食事作りには参加できないが、食事の準備中の匂いや、待っている間のおしゃべりなどの形で参加されている。	業者による調理食を提供しており、ペーストやカロリー食も調理済みである。入居者が直接調理にかかわることはなく、テーブル上で簡単な仕事(食前の挨拶係やタオルたたみ、お盆拭き等)を手伝われている。日々、館内放送により夜勤者が紹介されており、食前の挨拶や献立等もこの放送を通じて紹介したいとの意向も聞かれ、入居者への見当識や役割に繋がることと大いに期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当施設では、現在ナリコマフードの食事を提供している。栄養士と医師の指導の下で、個々に合わせた食事形態・食事を準備し、温かい物や冷たいものを適切な温度で提供するように心がけている。食事量、水分量の記録を行い、必要に応じて栄養補助食品を追加するなど、1日の必要量を無理なくとれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。個々の状態に合わせた歯ブラシやケア用品を使用している。個々の状態を見極めながら、できるところまでやって頂き、最後に必ず仕上げと確認を行っている。義歯消毒は每晚実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全ての利用者様に、定時でのトイレの声掛けを行っているが、定時にかかわらず、個々の利用者様のペースに合わせて誘導を行っている。全介助の利用者様も、スタッフ2名での対応が可能な場合は、できる限りトイレでの排泄を促すようにしている。排泄記録をつけており、状態把握に役立っている。	排泄チェック表を活用し、時間的な声掛けや誘導によりトイレでの排泄を支援している。排泄用品も個々の状況や時間帯で使い分け、布下着やリハビリパンツのみ、尿取りパットの併用、おむつ等入居者個々の状況に合わせた対応としている。また、排泄用品は主にホームで準備しているが、面会に繋がるからとの理由もあり家族が用意されるケースもある。昼・夜の使い分けや、夜間帯にポータブルトイレ使用も有り、安全且つ衛生的に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は全身体操やレクリエーションで、無理なく体を動かす活動を取り入れている。野菜の苦手な方には食物繊維やヤクルトを個別に取って頂いたり、起床時にコップ1杯の水を飲んで頂く、1日の水分量を記録し、必要に応じて味を変えたりゼリーなどでの摂取を、工夫しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	多くの介護を必要とする利用者様がほとんどであることに加え、設計上の理由から機械浴の設置は困難であり、個々の要望に沿った入浴は行えていない。その中でも、一人でゆっくり入浴できるよう、職員の言動で焦らせたりすることなく、最低限のプライバシーが守られるよう配慮を行っている。	入浴回数は週2回から週3回とユニットでの違いはあるが、ハード面での困難も有り、座位が保たれない方にはシャワー浴として、浴室を温めて誘導し足を温めながら支援している。また、入浴日ではない場合には足浴で支援し清潔保持に努めている。入居者は職員との会話や、かけ湯等を楽しみ、入浴拒否の方へは清拭や更衣を支援している。	入居者の重度化やハード的な問題により浴槽に浸かることは難しい状況にあるが、職員体制によっては2名介助等により時には浴槽に入ることが出来ないか検討いただきたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、利用者様の状態を見ながら、必要な場合は居室で休んで頂いたり、ソファに横になっていただく場合もある。夜間帯は室温や湿度に留意して、静かな環境で休めるように配慮し、寝具も清潔で季節に合ったものを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、個別の利用者様ごとに服薬方法を統一し実施している。薬のセット時、与薬時の日付、時間、名前の声出し確認、ダブルチェックを徹底している。薬の変更については、申し送りノートやケア記録に記載し、注意事項を申し合わせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・清掃・お盆ふきなど、個々の利用者様の希望や能力に応じた役割を担っていただいている。近所への外出・レクリエーション・誕生会などは定期的に行っており、利用者様も楽しみにされている。夕食時には毎晩晩酌をされる方もおられて、利用者様の持病や体調にもよるが、できる限り、利用者様が潤いのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるよう近所の散歩へ出かけたり、定期的にドライブも行っている。また、散髪や買い物等あれば一緒に出掛けていて、入居者様も大変喜ばれている。	コロナ感染予防対策や豪雨災害等により外出が制限されており、エレベーターを降りて周辺の散歩に出たり、受診時のドライブ、初詣等密にならない外出を支援している。外出したいとの訴えも少ないとのことであり、職員の皆さんが出かけたい思いを引き出す工夫に期待したい。	まだまだ豪雨災害の爪痕が残る地域では有るが、コロナ収束後にはこれまでの外出と併せ、家族等に外出の協力を依頼し、個別外出の機会を支援されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理ができる方はほとんどいらっしゃらない為、預り金として施設管理をさせていただいている。今年度はほとんど外出できていない為、買い物の同行は行っておらず、生活に必要な物品の購入や、本人様が希望された品は、ご家族様の了承を得て、施設で購入させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染防止の為なかなか面会ができない状況にあるが、担当職員から利用者様の状況をこまめにお伝えし、コミュニケーションを図っている。また、毎月お便りを送付する為、その中でも利用者様の様子をお伝えしている。利用者様がお便りを書かれることは難しいが、ご家族からお手紙がくることはあり、喜ばれている。昨年からは、ZOOMを使用してのオンライン面会も推進している。特に遠方にご家族がいらっしゃる場合は大変好評である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は、新型コロナウイルス感染防止の観点からも、1日2回の手すり等手に触れる部分の消毒と、毎日の清掃を徹底している。また、換気もこまめに行い、加湿器とオゾン発生器を導入している。当施設は4階5階にあるため、日中は広い窓から十分日光が降り注ぐ。フロアは花や季節感のある飾りで居心地の良い環境づくりに努めている。	日中の大半を過すりビングには日差しが差し込み、入居者同士や入居者と職員の会話が終日続いている。小上がりの和室は、入居者の身体状況から以前のように使用されていないが、冬場はこたつを置き、腰掛け代わりに使用されている。季節の花を生けたユニットや異食行為のある方の周辺には置かない等気を配り、感染症対策にこれまで以上に室内の換気や消毒に力を注いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋にこたつを置き、可能な利用者様には利用していただいている。フロアには3人用と一人用ソファを設置してあるため、利用者様は自由にお好きな場所で過ごされている。隣り合わせた方同士でのおしゃべりに花が咲く場面も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別にテレビの設置や、ラジオ機器を置き、室温・湿度は適切に保てるようにエアコンと加湿器で調整を行っている。出来るだけ今までの環境の雰囲気でも過ごせる様に、入居時に本人様にとって馴染みの物を持ってきて頂けるように本人様・ご家族様に話しをしている。但し、安全面を確保出来ない場合は、家具など置かないケースもある。	入居時に馴染みの物の必要性を説明し、使いたれた物の持ち込みを依頼している。ベッド・寝具はホームで用意されており、箆箆やテレビ、衣類等が持ち込まれている。階上にあるホームは、鳥対策にノットを活用し、毎週リネンを交換し、ポータブルトイレはカバーで被い、必要性ああればベッド柵にカバーを掛ける等安全性や衛生面へ工夫している。入居者の状況によっては、必要最低限のみを居室に入れる等個別に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	古い建物ではあるが、建物内はバリアフリーであり、トイレや浴室、廊下など共有部分には手すりを設置している。又、トイレや個室には名札や案内表示を取り付け、利用者様に分かりやすいように工夫をしている。		